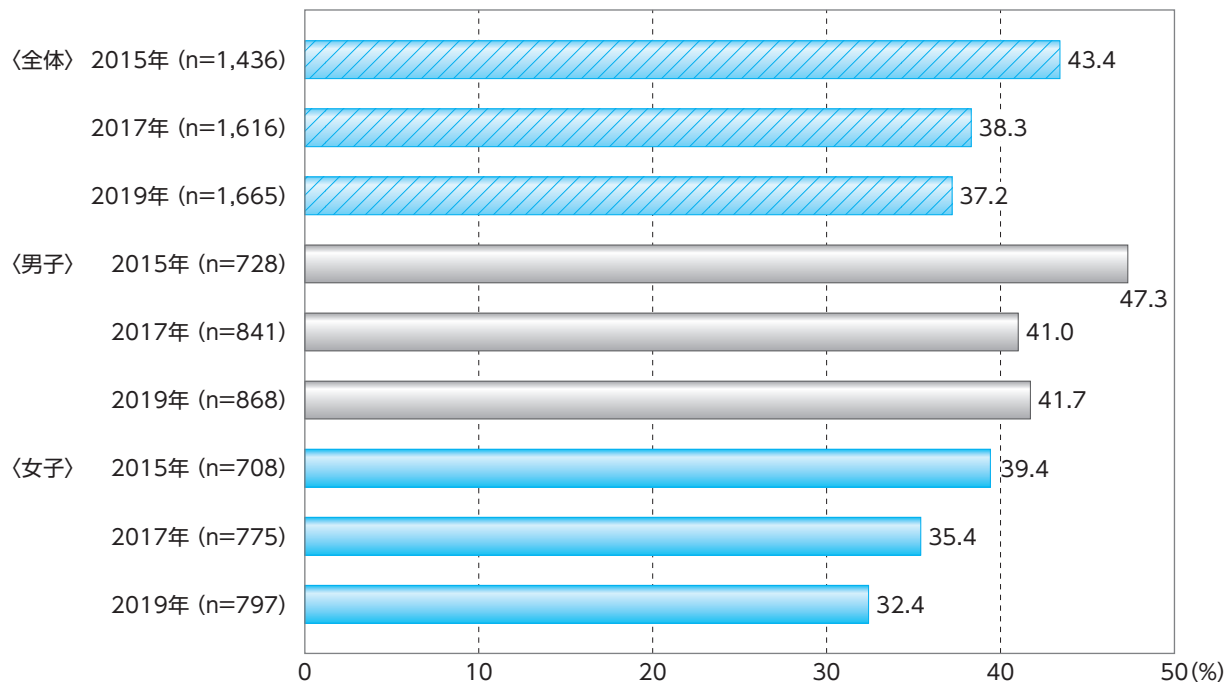


5 スポーツ観戦

5-1 直接スポーツ観戦状況

図5-1に12～21歳の直接スポーツ観戦率の年次推移を示した。過去1年間に体育館・スタジアム等へ足を運んで直接スポーツの観戦をした者は、全体の37.2%であり、わが国の12～21歳の青少年の直接スポーツ観戦人口は434万人と推計できる。

性別にみると、男子の観戦率は41.7%、女子は32.4%であり、男子が女子を9.3ポイント上回った。2015年からの推移をみると、全体と女子では減少傾向にある。男子は2015年から2017年にかけて6.3ポイント減少したが、その後は横ばいとなっている。



【図5-1】 直接スポーツ観戦率の年次推移(12～21歳:全体・性別)

注) 2015年は「10代のスポーツライフに関する調査」の12～19歳を分析対象とした

資料: 笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2019

表5-1に示す学校期別にみると、2019年は中学校期35.4%、高校期41.3%、大学期39.1%、勤労者30.9%であり、高校期の直接観戦率が最も高い。2015年から推移を概観すると、中学校期と大学期は2015年以降減少している。高校期は2015年から2017年にかけて減少したが、2019年は横ばいで推移している。

表5-2には、性別・学校期別にみる直接スポーツ観戦率を示した。2019年をみると、男子は中学校期40.4%、

高校期45.3%、大学期44.5%と中学生から大学生の観戦率は4割を超える。女子は中学校期29.5%、高校期37.1%、大学期34.2%であり、男子と比べて直接スポーツ観戦率は低い。特に、中学校期では10.9ポイント、大学期は10.3ポイントと男女差が大きい。勤労者は男子34.6%、女子26.4%と男女ともに観戦率は最も低く、この傾向は2015年以降変わらない。

【表5-1】直接スポーツ観戦率の年次推移(12~21歳:学校期別)

2015年		2017年		2019年	
学校期	%	学校期	%	学校期	%
中学校期 (n=506)	41.9	中学校期 (n=536)	39.7	中学校期 (n=565)	35.4
高校期 (n=530)	48.5	高校期 (n=475)	41.3	高校期 (n=506)	41.3
大学期 (n=225)	43.1	大学期 (n=358)	41.6	大学期 (n=363)	39.1
勤労者 (n=89)	29.2	勤労者 (n=205)	25.4	勤労者 (n=194)	30.9

注) 大学期・勤労者:2015年は「10代のスポーツライフに関する調査」の19歳までを分析対象とした

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2019

【表5-2】直接スポーツ観戦率の年次推移(12~21歳:性別×学校期別)

男子					
2015年		2017年		2019年	
学校期	%	学校期	%	学校期	%
中学校期 (n=276)	48.9	中学校期 (n=294)	43.5	中学校期 (n=307)	40.4
高校期 (n=272)	52.6	高校期 (n=237)	41.8	高校期 (n=258)	45.3
大学期 (n=92)	39.1	大学期 (n=176)	44.9	大学期 (n=173)	44.5
勤労者 (n=39)	25.6	勤労者 (n=117)	29.9	勤労者 (n=107)	34.6

女子					
2015年		2017年		2019年	
学校期	%	学校期	%	学校期	%
中学校期 (n=230)	33.5	中学校期 (n=242)	35.1	中学校期 (n=258)	29.5
高校期 (n=258)	44.2	高校期 (n=238)	40.8	高校期 (n=248)	37.1
大学期 (n=133)	45.9	大学期 (n=182)	38.5	大学期 (n=190)	34.2
勤労者 (n=50)	32.0	勤労者 (n=88)	19.3	勤労者 (n=87)	26.4

注) 大学期・勤労者:2015年は「10代のスポーツライフに関する調査」の19歳までを分析対象とした

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2019

5-2 直接観戦したスポーツ

表5-3に12~21歳の直接観戦したスポーツを示した。全体では「プロ野球(NPB)」の観戦率が12.0%と最も高く、次いで「高校野球」10.1%、「Jリーグ(J1、J2、J3)」6.2%、「バスケットボール(高校、大学、NBL、WJBLなど)」4.4%、「サッカー(高校、大学、JFLなど)」3.7%であった。

性別にみると、男女ともに「プロ野球(NPB)」(男子14.2%、女子9.7%)の観戦率が最も高く、次いで「高校野球」(男子11.5%、女子8.5%)であった。以下、男子は「Jリーグ(J1、J2、J3)」9.6%、「サッカー(高校、大学、

JFLなど)」5.0%「バスケットボール(高校、大学、NBL、WJBLなど)」4.4%が続く。女子では「バスケットボール(高校、大学、NBL、WJBLなど)」4.4%、「バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)」3.5%、「マラソン・駅伝」3.3%が続いた。

学校期別にみると、高校期を除いて「プロ野球(NPB)」(中学校期13.5%、大学期14.6%、勤労者9.8%)の観戦率が最も高い。高校期では「高校野球」が14.4%と最も高く、「プロ野球(NPB)」は9.5%であり2位であった。

【表5-3】12~21歳の直接観戦したスポーツ(全体・性別・学校期別:複数回答)

順位	種目	全体 (n=1,665)	男子 (n=868)	女子 (n=797)	中学校期 (n=565)	高校期 (n=506)	大学期 (n=363)	勤労者 (n=194)
1	プロ野球(NPB)	12.0	14.2	9.7	13.5	9.5	14.6	9.8
2	高校野球	10.1	11.5	8.5	5.8	14.4	11.6	8.8
3	Jリーグ(J1、J2、J3)	6.2	9.6	2.5	7.4	6.1	5.0	5.2
4	バスケットボール(高校、大学、NBL、WJBLなど)	4.4	4.4	4.4	2.3	7.5	4.4	3.1
5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	3.7	5.0	2.4	3.4	5.5	3.3	1.0
6	プロバスケットボール(Bリーグ、bjリーグ)	3.5	4.1	2.8	4.1	4.2	2.2	3.1
7	マラソン・駅伝	3.4	3.5	3.3	3.2	5.1	2.8	1.0
8	バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	2.8	2.1	3.5	1.8	3.8	3.3	2.6
9	アマチュア野球(大学、社会人など)	1.7	2.4	1.0	1.4	1.6	2.5	2.1
10	サッカー日本代表試合(五輪代表を含む)	1.6	2.8	0.4	1.6	1.4	1.7	2.1
	直接みたことはない	62.8	58.3	67.6	64.6	58.7	60.9	69.1

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2019

5-3 テレビやスマートフォンなどのメディアによるスポーツ観戦状況

図5-2に12~21歳のテレビやスマートフォンなどのメディアによるスポーツ観戦率を示した。過去1年間にテレビやスマートフォンでスポーツの試合を観戦した者は全体の72.4%であり、わが国の12~21歳のテレビやスマートフォンなどによるスポーツ観戦人口は845万人と推計された。

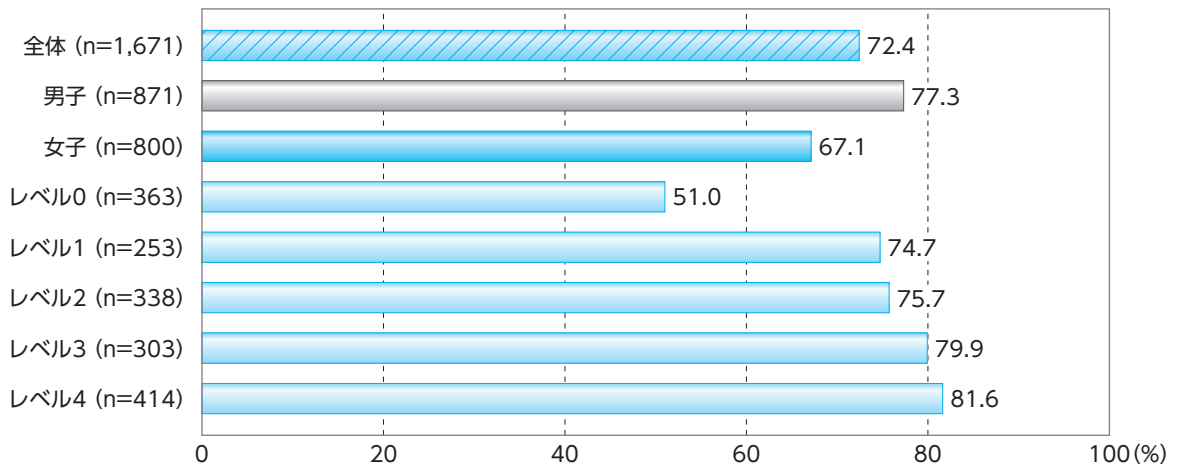
性別にみると、男子77.3%、女子67.1%であり、男子が女子を10.2ポイント上回る。

運動・スポーツ実施レベル別にみると「レベル0」51.0%、「レベル1」74.7%、「レベル2」75.7%、「レベル3」79.9%、「レベル4」81.6%であり、レベルが上がるにつれて観戦率は高くなる。

図5-3に示す学校期別にみると、2019年のメディアによるスポーツ観戦率は中学校期74.4%、高校期75.0%、大学期75.6%と学年進行にともなって観戦率は高くなる。

また、勤労者の観戦率は55.7%と最も低かった。

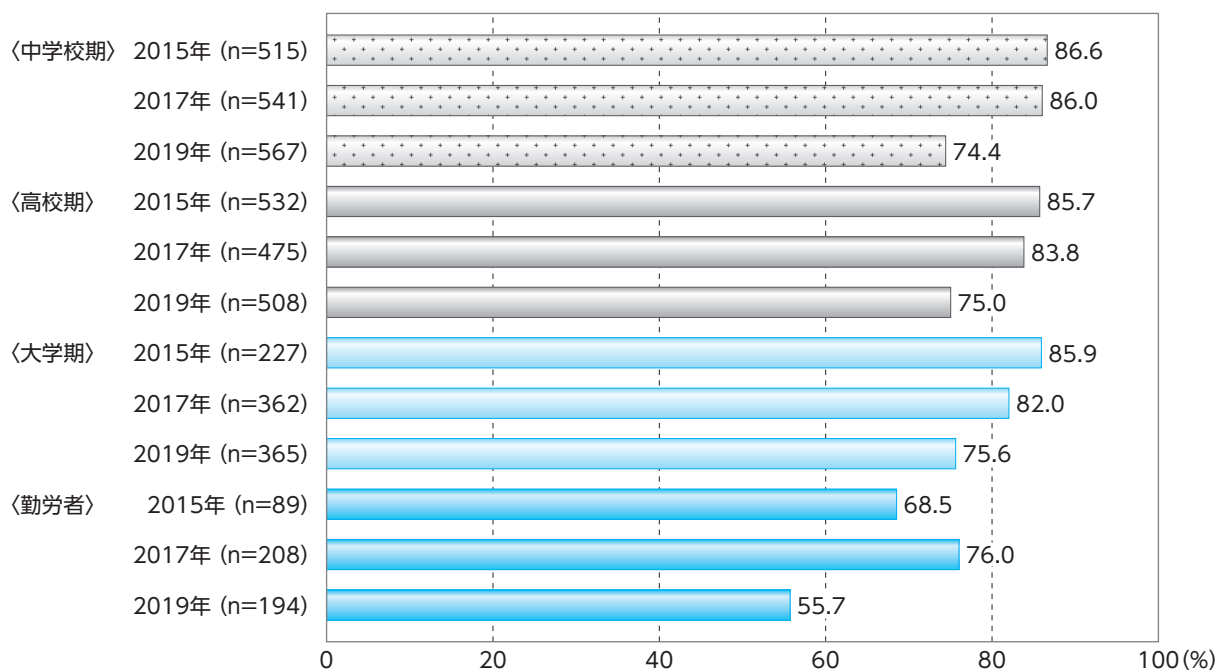
2015年調査からの推移をみると、勤労者を除いた学校期のメディアでの観戦率は減少傾向にある。



【図5-2】 テレビやスマートフォンなどのメディアによるスポーツ観戦率 (12~21歳:全体・性別・レベル別)

注) メディア: テレビ・スマートフォン・パソコン・タブレットなどによる視聴を含む

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2019



【図5-3】 テレビやスマートフォンなどのメディアによるスポーツ観戦率の年次推移 (12~21歳:学校期別)

注1) 大学期・勤労者: 2015年は「10代のスポーツライフに関する調査」の19歳までを分析対象とした

注2) 2015年・2017年はテレビ観戦のみを対象としている

注3) メディア: テレビ・スマートフォン・パソコン・タブレットなどによる視聴を含む

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2019

5-4 テレビやスマートフォンなどのメディアで観戦したスポーツ

表5-4に12~21歳が過去1年間にテレビやスマートフォンなどのメディアで観戦したスポーツを示した。全体では「プロ野球 (NPB)」が38.2%と最も高く、次いで「高校野球」32.4%、「サッカー日本代表試合 (五輪代表を含む)」29.8%、「フィギュアスケート」24.8%、「プロテニス」22.9%であった。

性別にみると、男子は「プロ野球 (NPB)」43.6%が

最も高く、次いで「高校野球」36.6%、「サッカー日本代表試合 (五輪代表を含む)」35.2%、「海外のプロサッカー (ヨーロッパ、南米など)」25.8%となり、野球とサッカーの人気が高い。一方、女子は「フィギュアスケート」35.4%が最も高く、次いで「プロ野球 (NPB)」32.3%、「高校野球」27.8%、「プロテニス」25.3%であり、男女で種目に違いが確認できる。

【表5-4】12~21歳のテレビやスマートフォンなどのメディアで観戦したスポーツ(全体・性別:複数回答) (%)

順位	種 目	全体 (n=1,671)	男子 (n=871)	女子 (n=800)
1	プロ野球 (NPB)	38.2	43.6	32.3
2	高校野球	32.4	36.6	27.8
3	サッカー日本代表試合 (五輪代表を含む)	29.8	35.2	23.9
4	フィギュアスケート	24.8	15.0	35.4
5	プロテニス	22.9	20.7	25.3
6	マラソン・駅伝	21.8	20.3	23.5
7	メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)	18.6	25.3	11.4
8	海外のプロサッカー (ヨーロッパ、南米など)	18.0	25.8	9.5
9	Jリーグ (J1、J2、J3)	17.2	24.0	9.9
10	大相撲	14.7	14.8	14.5
	テレビやスマートフォンなどで観戦したスポーツはない	27.6	22.7	32.9

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2019

COMMENTS

- 子どもは身体を動かすことが嫌いなわけではないが、体力がないため積極的に行うことはない。家族でスポーツ観戦に出かけて楽しめるように心がけている。(13歳女子の母親)
- スポーツ観戦したり、TVや新聞を一緒にみたり、スポーツ選手についての会話をして家族でスポーツを楽しんでいる。(18歳女子の母親)
- 小学生にスポーツの習いごとをさせるのは、働いている親にとってはとても負担が大きいと思います。母親がそのスポーツを好き、または興味を持ってないと余計に大変だと思います。私自身スポーツが苦手なのでネガティブに考えてしまいます。子どもと一緒に活動してくれる友だち、指導者と仲良くなれば楽しめると思いますが、その活動に参加しようという親のモチベーションによって決まってしまうように思います。(7歳女子の母親)
- 共働きなのでスポーツをさせたいが送迎ができないので、習わせることができない。(8歳男子の母親)

資料: 笹川スポーツ財団「4~11歳のスポーツライフに関する調査」2019、「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2019

表5-5には、表5-4に示したテレビやスマートフォンなどのメディアによる観戦率が高かった全体の上位5種目に着目し、学校期別に示した。2019年では、いずれの学校期においても「プロ野球 (NPB)」が最も高く、「高校野

球」「サッカー日本代表試合 (五輪代表を含む)」と続く。テレビやスマートフォンなどのメディアで観戦したスポーツは学校期による違いは確認できなかった。

【表5-5】 12～21歳のテレビやスマートフォンなどのメディアで観戦したスポーツの年次推移 (学校期別:複数回答)

(%)

順位	種 目	中学校期			高校期			大学期			勤 労 者		
		2015 (n=515)	2017 (n=541)	2019 (n=567)	2015 (n=532)	2017 (n=475)	2019 (n=508)	2015 (n=227)	2017 (n=362)	2019 (n=365)	2015 (n=89)	2017 (n=208)	2019 (n=194)
1	プロ野球 (NPB)	51.8	58.0	40.7	50.0	50.1	38.8	46.3	51.1	41.4	34.8	41.3	25.8
2	高校野球	38.6	38.8	33.7	43.2	41.1	33.7	41.9	45.9	35.3	32.6	31.3	22.2
3	サッカー日本代表試合 (五輪代表を含む)	47.4	43.1	32.3	47.4	39.8	30.1	50.7	39.0	32.1	30.3	31.3	19.1
4	フィギュアスケート	40.0	35.7	26.1	39.1	36.8	24.2	41.9	38.7	30.7	20.2	22.1	13.4
5	プロテニス	34.6	28.1	27.9	32.5	25.3	23.2	37.0	28.5	21.9	19.1	12.0	10.8
	テレビやスマートフォンなどで 観戦したスポーツはない	13.4	14.0	25.6	14.3	16.2	25.0	14.1	18.0	24.4	31.5	24.0	44.3

注1) 順位は2019年調査における全体の観戦率が高かった上位5種目

注2) 大学期・勤労者:2015年は「10代のスポーツライフに関する調査」の19歳までを分析対象とした

注3) 2015年・2017年調査はテレビ観戦のみを対象としている

注4) 回答選択肢(その他を除く)は、2015年調査17種目、2017年調査23種目、2019年調査24種目とした

資料: 笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2019

5-5 テレビやスマートフォンなどのメディアで観戦した映像や動画の内容

テレビやスマートフォンなどのメディアでスポーツを観戦した12～21歳を対象に、どのような映像や動画をみたのかを複数回答でたずねた。

表5-6には、表5-4に示したメディアによる観戦率が高かった全体の上位5種目に着目し、映像や動画の内容ごとの割合を全体・性別に示した。

【表5-6】 12～21歳のテレビやスマートフォンなどのメディアで観戦した映像や動画の内容 (全体・性別:複数回答)

(%)

順位	観戦した種目	全 体					男 子					女 子				
		n	生中継の試合	DVDなどの録画映像 (DVDなどを含む)	ニュースなどのスポーツコーナー	生中継を除くウェブ上の動画	n	生中継の試合	DVDなどの録画映像 (DVDなどを含む)	ニュースなどのスポーツコーナー	生中継を除くウェブ上の動画	n	生中継の試合	DVDなどの録画映像 (DVDなどを含む)	ニュースなどのスポーツコーナー	生中継を除くウェブ上の動画
1	プロ野球 (NPB)	634	70.7	14.7	52.8	16.4	377	71.4	17.8	52.0	22.8	257	69.6	10.1	54.1	7.0
2	高校野球	538	70.6	15.2	44.2	16.2	317	69.1	16.7	49.2	21.8	221	72.9	13.1	37.1	8.1
3	サッカー日本代表試合 (五輪代表を含む)	492	68.7	19.1	45.1	14.6	302	67.2	25.2	46.7	21.2	190	71.1	9.5	42.6	4.2
4	フィギュアスケート	411	70.6	20.0	47.0	9.7	130	66.2	18.5	53.1	12.3	281	72.6	20.6	44.1	8.5
5	プロテニス	374	50.8	19.8	57.8	11.0	177	53.1	25.4	56.5	18.1	197	48.7	14.7	58.9	4.6

注) 順位は2019年調査における全体の観戦率が高かった上位5種目

資料: 笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2019

全体をみると「プロ野球 (NPB)」「高校野球」「サッカー日本代表試合 (五輪代表を含む)」「フィギュアスケート」は「生中継の試合」の割合が最も多く、「プロテニス」は「ニュースなどのスポーツコーナー」57.8%が最も多かった。

性別にみると、男子の「生中継の試合」は「プロ野球 (NPB)」71.4%が最も多く、次いで「高校野球」69.1%であった。女子は「高校野球」72.9%が最も多く、「フィギュアスケート」72.6%が続いた。また、「生中継を除くウェブ上の動画」は全ての種目において女子に比べて男子の割合が高く、「サッカー日本代表試合 (五輪代表を含む)」は男女差が17.0ポイントと最も大きかった。

表5-7には学校期別にみたテレビやスマートフォンなどのメディアで観戦した映像や動画の内容を示した。「プロ野球 (NPB)」における「生中継の試合」の割合は中学校期74.6%、高校期68.9%、大学期66.9%と学年進行にともなって減少する。一方「サッカー日本代表 (五輪代表を含む)」は中学校期65.2%、高校期69.3%、大学期72.4%と学校期が上がるにつれ増加し、種目によって映像や動画の内容に違いがみられた。勤労者はいずれの種目も「試合の録画映像 (DVDなどを含む)」の割合が他の学校期と比べて低かった。

【表5-7】12～21歳のテレビやスマートフォンなどのメディアで観戦した映像や動画の内容
(学校期別:複数回答)

順位	観戦した種目	中学校期					高校期					大学期					勤労者				
		n	生中継の試合	(DVDなどを含む) 試合の録画映像	スポーツコーナー	ニュースなどのウェブ上の動画	生中継を除くウェブ上の動画	n	生中継の試合	(DVDなどを含む) 試合の録画映像	スポーツコーナー	ニュースなどのウェブ上の動画	生中継を除くウェブ上の動画	n	生中継の試合	(DVDなどを含む) 試合の録画映像	スポーツコーナー	ニュースなどのウェブ上の動画	生中継を除くウェブ上の動画		
1	プロ野球 (NPB)	228	74.6	16.2	49.1	14.9	196	68.9	13.3	50.5	16.3	151	66.9	17.2	63.6	16.6	50	70.0	8.0	50.0	22.0
2	高校野球	189	73.0	16.4	44.4	13.8	171	66.7	18.1	45.0	21.6	128	71.9	14.1	45.3	13.3	43	69.8	2.3	41.9	11.6
3	サッカー日本代表試合 (五輪代表を含む)	178	65.2	21.3	46.6	13.5	153	69.3	17.0	41.2	19.6	116	72.4	22.4	46.6	9.5	37	70.3	8.1	51.4	10.8
4	フィギュアスケート	148	75.7	18.2	46.6	7.4	121	62.0	19.8	45.5	13.2	111	74.8	25.2	48.6	9.0	26	69.2	11.5	46.2	11.5
5	プロテニス	157	46.5	23.6	55.4	9.6	115	52.2	12.2	55.7	12.2	77	58.4	27.3	62.3	9.1	20	40.0	10.0	70.0	20.0

注) 順位は2019年調査における全体の観戦率が高かった上位5種目

資料: 笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2019

COMMENTS

- 子どもと一緒にスポーツ (サッカー) について話したり、テレビで観戦したりしています。 (13歳男子の母親)
- 休みの日にはできるだけ子どもの練習や試合を見学し、子どもの成長を見守っている。 (11歳男子の母親)
- 近隣のスポーツ公園で子どもたちと一緒に楽しくスポーツを教えてもらっています。 (16歳女子の母親)

資料: 笹川スポーツ財団「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2019、「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2019